

野川台自治会

あいさつ運動の輪

発行：野川台自治会
 発行者：野川台自治会長
 川崎市宮前区！
 TEL.
 協力：西野川小・野川中PTA、おやじの会
 一葉会、すずの会、青少年指導員ほか
 編集：福祉の風土づくりを進める会事務局



家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして



あいさつ運動を始めてから7年目、子どもたちの思いに応えて「あいさつの輪」、
 「さりげないお節介の輪」の拡がりを通じて心と心の“絆”づくりを皆さんの手で！

「人と人とを繋ぐまほうの言葉」

西野川小学校 教頭 白川 由紀子

地域・保護者の皆様、日々の「あいさつ運動」にご協力いただきましてありがとうございます。「挨拶」は、人と人とを繋ぐ第一歩です。子ども達に身に付けさせたい力の一つにコミュニケーション力がありますが、この力を付けるはじめての一步が「挨拶」です。

西野川小学校の児童は、「あいさつ運動」に進んで参加して、この力をつけていっています。私は、心を込めた挨拶を、着任式で初めて聞きました。全校児童が揃って、元気よく、笑顔で。とても素敵な挨拶で、これからの学校生活が楽しみになりました。

校門前を、朝、野川中学校の生徒も挨拶をして通っていきます。同じところで生活する人どうしが、人との繋がりを大切にする心を、この「あいさつ運動」から自然と身につけていっていると感じます。

「あいさつ運動」が、野川地区の生活全般に広がっていき、より、人との繋がりを大切にしたい素敵な地域になっていくことを願って、私も昇降口や校門でのあいさつを続けていきます。

あいさつ運動によせて

野川中学校 教務主任 五十嵐 浩

平成20年4月に野川中学校に着任し、6年目になりますが、いくつになっても新しい環境に飛び込むのは不安なものでした。

荷物を運び入れるために春休みに学校に来た時のこと、部活動で登校していたと思われる生徒から先に、元気な声で「おはようございます」と挨拶をしてくれました。この一言で、私の不安の大部分は、どこかに吹き飛んで行ったように思えました。

普段何気なく交わしている挨拶ですが、本校では委員会や生徒会によるあいさつ運動、民生委員や野川町会の方々によるあいさつ運動、野川自治会の方々と教職員による日中の地域パトロールを兼ねたあいさつ運

動など、これまで継続的に行われてきた活動があったからこそ、多くの生徒が進んで挨拶のできる学校になっているのだと思います。挨拶をされて、嫌な気持ちになる人はいないと思います。特に一日のスタートの言葉である「おはようございます」は、互いに気持ちよく交わしたいものです。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

学校を舞台に存在感溢れる「おやじの会」！

ヤゴがいたぞ！こっちにはタニシもいるよ！声・声……。7月6日(土)真夏の昼下がり、西野川小学校の「せせらぎの池」での4年振りの清掃活動のひとコマです。

清掃の音頭をとったのは、「西野川小学校おやじの会」で、メンバー13名と先生やPTA・子どもたち総勢50名近くで、校長先生も首にタオルを巻き、スコップを持ち参加しておられました。全長約30メートルの「せせらぎの池」のヘドロを掻きだしたり、草取りなど汗をふきふき、和気あいあいの中、一時間半で作業を終えました。日本庭園風の池が蘇り、子どもたちの安らぎの場となっています。結成14年日の「おやじの会」の活動の趣旨は、①学校を舞台に地域と親子を結び付けること、②長続きさせるため様々な活動を楽しみながらすること。今年も、どんど焼き、親子のうどんづくり、ペットボトルロケット制作などで存在感を示しています。

(おやじの会の会長は、
佐藤達博)





支え合う地域コミュニティへの期待

—— あいさつは、気づき、見守りのはじまり ——



“単身化社会”に合わせた地域支え合いのすすめ

9月7日、「地域支え合いのすすめ」をテーマに地区社協主催の研修会がありました。講師の神戸学院大学の藤井博志先生は、「三世代社会から、“単身化社会”（個化社会）に合わせたコミュニティをつくるのが重要。具体的には助け合ったり、迷惑を掛け合ったりお互い様の関係づくりの中で、“福祉、気がつき人間”を育て、身近な手助けや見守りなど小地域福祉活動に繋げていくことが大切」と話されました。その意味でもあいさつは、人と人との出会いの始まりで、気づき、見守りの原点と言えましょう。

支え合い・絆づくりに繋がる場づくり

人と出会い、楽しみながら絆づくりに繋がる場は概ね三つのタイプに分けられます。野川地域でみてみますと、一つは公の場としての「野川いこいの家」が挙げられ、教養講座、健康体操、会食会等が行われています。二つ目には地域が挙げられます。盆踊り、バスハイク、虹色の音楽会、福祉祭り、地域清掃、公園体操等、三つ目としては隣近所のふれあいの場です。井戸端会議、寄り合い、お茶のみ会、ダイヤモンドクラブなどの場が挙げられます。特に隣近所はお互いに日常生活に直結していることから、気づき、見守り、支え合いに繋がる地域福祉の原単位と言えます。

(事務局)



顔見知りになり楽しい公園体操！

あいさつ運動の“すこし先”

近所付き合いの少ないひとり暮らしの高齢者の方が、ある日の早朝、自宅玄関先で倒れました。助けを呼ぶ声で異変に気付いたご近所の方々が、すぐ救急車を呼び病院に。入院が長期になると解った段階で、ご近所の方々が動き出し、家屋の防犯確認、新聞購読の中止連絡、郵便物の保管、草むしり、パトロール中のお巡りさんに見回りをお願い。ここには、よくある住民同士の交流不足は些かも見えず、この「さりげないけど大切なお節介」は、倒れた方の親類縁者が来られるまで二カ月間にわたり継続されたのです。

そうした見守りは、地域包括支援センターからの病院や親類の情報が近所のキーパーソンに伝えられたことも支えになったかもしれません。いずれにしても、「現代版向う三軒両隣の絆づくり」がこのように既に地区で機能しているところもあるのです。見えてきた形を地域全体に広げたものです。
(自治会員)



野川中学校の朝のあいさつ運動

“人と人との交わり”をもう一度考える時代！

財団法人聖マリアンナ会東横恵愛病院

理事長 赤尾 保志

父は8年前に、母は今年天に召された。

両親は、大正、昭和そして平成の時代を力強く生き、私を含め、4人の子どもを育ててくれた。激動の時代の中にあって、生死を身近に感じながら、生きる喜びを私たちに教えてくれた。私が小学生1年の頃、家の中で鉛筆を削っていて、左手人差し指を切ってしまった。6～7軒先に住む懇意にしていた小母さんの家に駆け込み、傷の手当てをしてもらった。

今でもその傷は残っており、それを見るたびにその小母さんのことを思い出す。当時は「向う三軒両隣り」の近所付き合いであり、家族同然の付き合い・交流があった。今は何となく隣人とも疎遠な感じがする。

人と人との交わりの大切さをもう一度考える時代に入っているのではないかな？

相互が扶助しあえること、心と心との交わりを深めることが、多くの人々との繋がりを広げることになるのではないのでしょうか。

(本文は、聖マリアンナ会報「ひだまり」

25年夏号に掲載されたのを、理事長さんのご理解により転載させて頂きました)



三世代参加の夏休みのラジオ体操（毎回200名近く）



あいさつは笑顔あふれるひみつの言葉

—— 人とのふれあいの第一歩 ——



おはようございます

野川小学校 校長 中川 久資

4 月に野川小学校に着任し、毎朝「あいさつ運動」が行われていることに感動しました。

野川小学校では、毎朝 8 時に昇降口が開き、「あいさつ運動」が始まります。8 時 10 分から野川ふれあい委員会の子も達、担当クラスの子も達とその担任が参加します。そして、その学年の保護者の方も参加します。曜日によっては町会の皆さんや主任児童員さん民生委員さんも参加してくれます。

登校してくる子ども達に「おはようございます」と声をかけます。負けずに声を返してくれる子もいますが、圧倒される子もいるようです。

気持ちよくあいさつし、お互いの気持ちが通じ合う、「おはようございます」と言えるような学校になればよいと思っています。どんな時も自然に挨拶が交わされる学校を目指したいものです。



野川小学校の朝のあいさつ運動

人と人をつなぐあいさつ

野川中学校 2 年 生徒会副会長 渡邊 葉月

私にとってあいさつとは、人と人をつなげるきっかけになるものだと思います。それは普段あまり会話をしない人にあいさつをすれば、きっと相手も返してくれる、今まで関わったことの無い人との関わりを広げるチャンスになるからです。そして朝一番に「おはよう」とあいさつすると気持ちの良い朝を迎えられるのではないのでしょうか。

そこで、野川中では、月曜日の朝はサミットメンバーや一部の一般生徒で、それ以外の日は、生活委員会があいさつ運動を行っています。月曜日の一般生徒の参加については、自由ですが参加者が多く、どんどんあいさつの輪が広がっています。今後もあいさつを通じ、活気ある野川中を目指していきたいです。

あいさつは、みんなのハート！

西野川小学校 2 年生

ぼくは、人にあったら、かならずあいさつをしています。あいさつをすると気持ちがいいです。あいさつをするたび、えがおであいさつをかえしてくれて、うれしかったです。もっとあいさつをつづきたいです。

(まがた きみよしさん)

あいさつうんどうで、あいさつをかえしてもらおうと、えがおになって、あたたかい気持ちになります。あいさつをするとみんなえがおで、にこにこになるので、もっとあいさつをつづきたいなと思いました。

(二見 心雪さん)

ぼくは、あいさつうんどうをしました。それで、門にはいった人にあいさつをしたら、あいさつをかえしてくれました。いわれたときは、とってもうれしかったです。

(大がき あきらさん)

あいさつは 心をつなぐ

南野川小学校 校長 秋本 和子

日頃より、保護者、町会、民生委員の皆様方には、朝のあいさつ運動にご協力いただき、感謝しています。

最近は、廊下や階段ですれ違う子どもたちが、「おはようございます」のあいさつだけでなく、ごく自然に「こんにちは」とあいさつできるようにもなっています。ある郊外学習を引率した時のことです。ある子がバス停のベンチに腰掛けていて一般の方に、明るく大きな声で「おはようございます」とあいさつをしました。集団活動で公共機関で利用する際は、一般の方々には煙たがられることもあるのですが、このときは、相手の方だけでなく周りの方々も笑顔になり、その周辺が華やかな空気に包まれました。まさしくあいさつの力です。あいさつ運動は、児童の主体的な活動としても展開していきたいと思っているのですが、本校は正門が給食物資の搬入経路にもなっており、業者車両の出入りと登校時刻が重なってしまうという課題があります。しかし、子どもたち自らのアイディア・工夫で、主体的・自主的なあいさつ運動が実践できるようにしていきたいと考えています。



南野川小学校の朝のあいさつ運動

学校と地域のつながり



学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

(文責は編集事務局)

みんなで楽しみ合った運動会！

待ちに待った運動会！朝早くから会場づくりに協力し合ったお父さん達！今日は地域の学校でのお祭り、終日、老若男女の笑顔と歓声の絶えない一日でした。

西野川小学校では、昨年からの徒競走、リレー、玉入れなどの競技種目の他に、表現運動（ダンス・組体操）を新たに取り入れました。児童の自由な表現が醸し出されて、大好評！時にはワンテンポ早かったり、みんなと向きが少し違ってみたり、それはなんとも可愛らしく、保護者も地域の人もうれしそうに受け止め、楽しみ合っている様子が伺えました。そうした運動会の楽しさを増大させたもう一つの要因に、保護者席を体育館側に移したことで、子どもの演技がよく見えるようになったと喜ぶ声が、多く聞かれました。



かごまでとどけ！



力強くレッツソーラン！

個性豊かな放送芸術部の活躍！

中学校の文化を創造するユニークな部で、二つの班で構成されています。そのひとつの放送班は、毎年、15分程度のビデオ制作に取り組んでいます。昨年は「絶滅危惧種を守るため」をテーマに象牙の密売等象の乱獲防止に挑戦。横浜動物園ズーラシアに出向き飼育員さんから生の声を取材するなど苦労しながらまとめ、市中学校放送コンテストで奨励賞を受賞。

もうひとつは、芸術班です。毎年、生徒会の年間活動目標をデザイン化した看板を共同で苦労しながら制作し、校舎の壁面に掲示。日々の生徒の心の拠り所になっており、また来校者へのアピールにもなっています。また各人の美意識を色々なポスターコンテスト等を通じて表現し、社会貢献に繋がっています。

(顧問は、放送班山崎先生、芸術班立和名先生)



楽しいビデオ制作！



“跳躍”年間活動目標！

夏休み、ボランティアで地域清掃を実施！

日頃お世話になっている地域の清掃活動を、今年も生徒会、福祉厚生委員会、サミットメンバーが中心になって7月から8月にかけて2回実施。



ゴミ拾い作戦開始！

8月22日の清掃は、夏休みにもかかわらず、自主的に参加した1,2年生は、男女合わせて80名にも及び、午後3時の炎天下の中、熱中症に注意しながら野川地域を5コースに分れて、短時間のゴミ拾い作戦を開始。駐車場や側溝さらには植込みの中まで丁寧に、紙や、たばこのすいがら、空き缶等のごみを和気あいあいと拾いあい、その光景は、学年を超えた絆づくりの契機になっているように見えました。生徒のつぶやきの「ごみを拾う人は、ごみを捨てなくなるよ！」という言葉が印象的でした。

(担当は、蓬田先生)

水泳部、“チーム野川”の精神で関東大会へ！

水泳部の選手7名は、学校にプールがないため、近隣のスイミングスクールで雨の日も、風の日もトレーニングを積み重ね、選手



全員集合“チーム野川”

によっては毎日、10キロメートル以上泳ぎ込むなど並々ならぬ努力を重ねているとのこと。孤独の中の精神力、自己管理は他に類をみないと言えるかもしれません。

そうした努力が実り、8月、選手3名が横浜国際プールで開催された関東大会に参加。200メートル個人メドレー（3年生）、400メートルと1,500メートルの自由型（2年生）、そして1年生が200メートルバタフライに出場し、それぞれが口頃の力を発揮。そして応援の選手等全員が団結し“チーム野川”の精神をもって参加し、多くの観客にすがすがしさと感動を与えていたことが伺えました。(顧問は、藤田先生、古川先生)

編集後記

4月に着任された中川校長先生と白川教頭先生にも執筆をお願いしました。快く引き受けて頂き、人との繋がりを大切にし、自然に挨拶し合える学校を目指したいとの強い思いを語って下さいました。また東横恵愛病院の赤尾理事長さんにもご協力を頂き、感謝申し上げます。引き続き学校と地域が一緒に、あいさつ運動を通じて絆づくりを進めてまいります。

(日高、原、山本、辻本、後藤、岩本)